

5月は自転車安全利用強化月間

【自転車の事故による救急統計について】

5月の自転車安全利用強化月間に合わせて、安全な自転車の利用促進を図り事故を予防するため、管内の過去3年間（2018年から2020年まで）の自転車に関連する事故による救急統計を取りまとめましたのでお知らせします。

過去3年間、管内では739人が自転車に関連した事故により救急搬送されています。

本統計では事故形態を、「自転車と自動車（二輪車を含む）の交通事故によって救急搬送された場合」を<自転車×自動車>と、「自転車の単独事故及び自転車同士の交通事故によって救急搬送された場合」を<自転車単独事故など>と、「歩行者と自転車の交通事故によって救急搬送された場合」を<歩行者×自転車>と表記します。

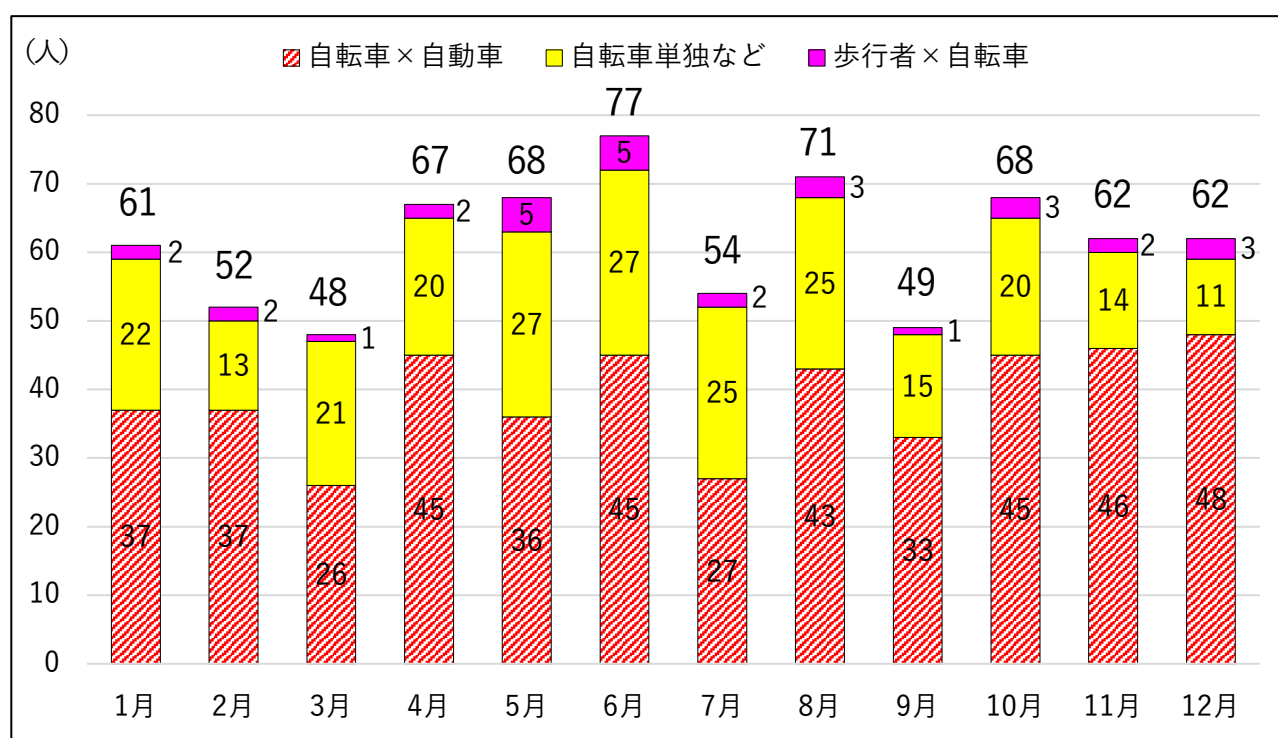
各事故形態の搬送人員（比率）は、<自転車×自動車>が468人（63.3%）、<自転車単独事故など>が240人（32.5%）、<歩行者×自転車>が31人（4.2%）となります。

※ 一般社団法人福島県交通安全協会では、5月を自転車安全利用強化月間としている。

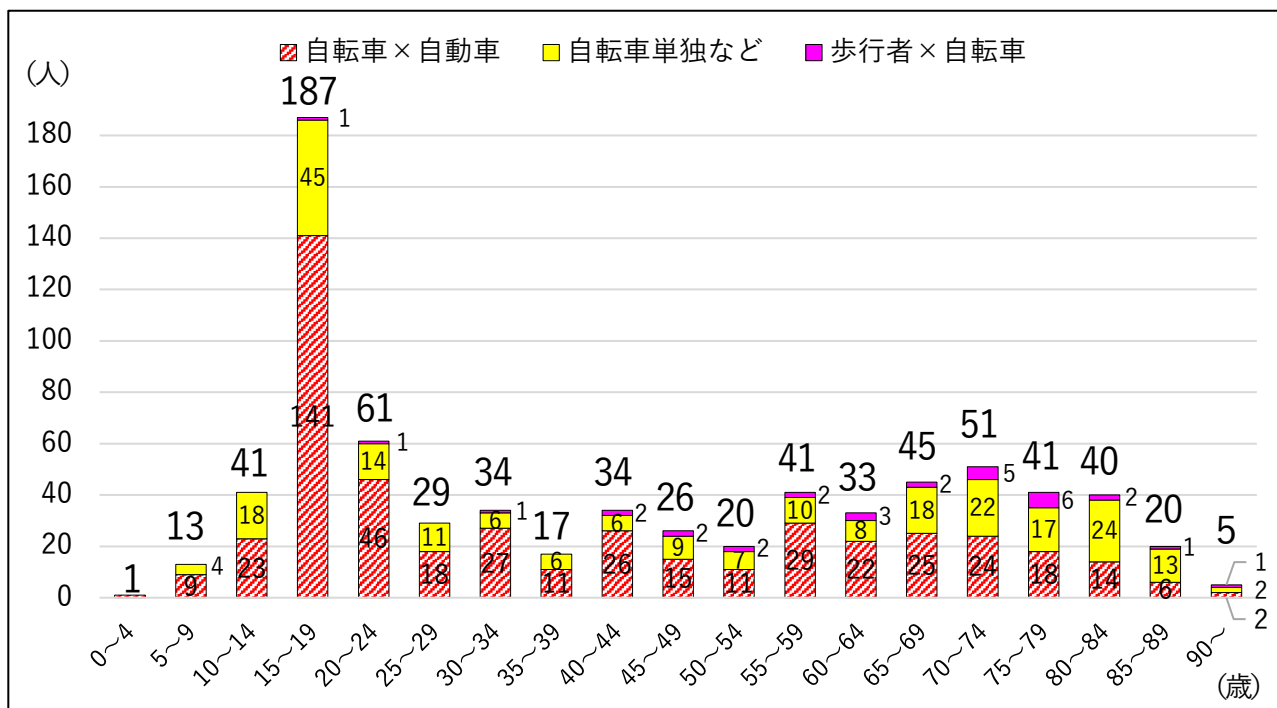
※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値。

1 月別の救急搬送人員

月別の救急搬送人員をみると6月が最も多く77人、次いで8月が71人、5月と10月が68人と続きます。

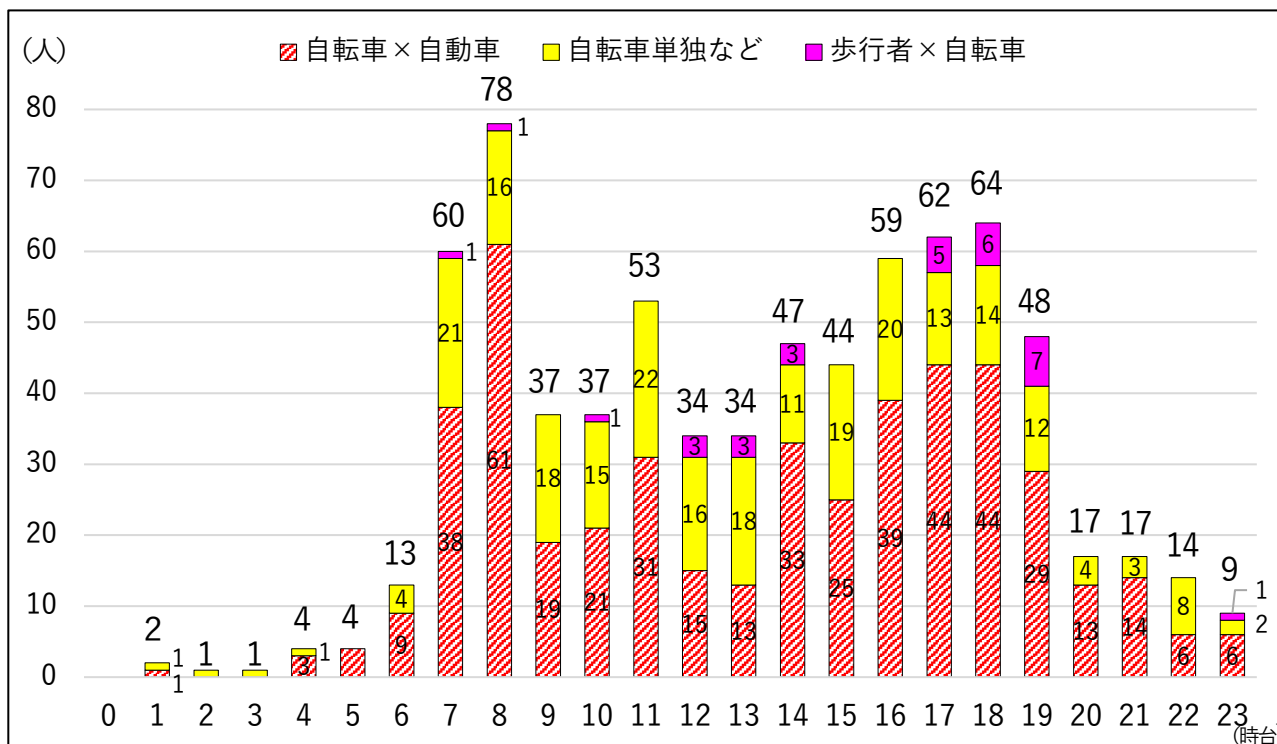


年代別の救急搬送人員をみると、「15歳から19歳」が最も多く187人、次いで「20歳から24歳」が61人、「70歳から74歳」が51人と続きます。



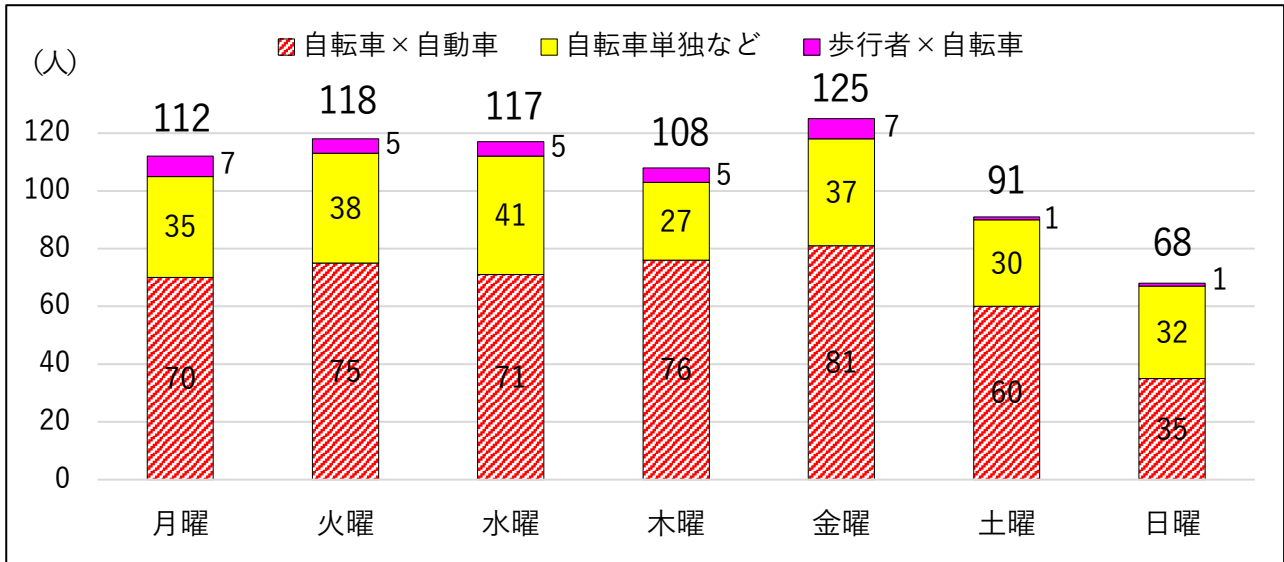
3 時間帯別の救急搬送人員

時間帯別の救急搬送人員をみると、「8時台」が最も多く78人、次いで「18時台」が64人、「17時台」が62人と続きます。



4 曜日別の救急搬送人員

曜日別の救急搬送人員をみると、「金曜日」が最も多く125人、次いで「火曜日」が118人、「水曜日」が117人と続きます。



5 傷病程度別の救急搬送人員

傷病程度別の救急搬送人員をみると、「軽症」が最も多く595人(80.5%)、次いで「中等症」が122人(16.5%)、「重症」が22人(3.0%)と続きます。

なお、傷病程度は、救急隊が医師に引き継いだ時点での医師による初診時のもの。

※「軽症」とは、傷病の程度が入院加療を必要としないもの。

※「中等症」とは、傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

※「重症」とは、傷病の程度が3週間以上の入院を必要とするもの。

※「死亡」とは、医師の初診時において死亡が確認されたもの。

